

日本福祉大学
スポーツ科学センター年報
平成 28 年度版



目 次

- | | | |
|---------------------|----------------|--------|
| 1. はじめに | —センター長挨拶— | p.1 |
| 2. スポーツ科学センターの活動 | | p.2 |
| 3. スポーツ科学センター会議 | | p.3 |
| 4. スポーツ強化支援政策 | | p.4～15 |
| 5. みはまスポーツクラブの活動支援 | | p.16 |
| | (地域及び学内スポーツ振興) | |
| 6. 今年度の総括および次年度に向けて | | p.17 |

1. はじめに ーセンター長挨拶ー

今年度から、科学センター教員（助教）として、中尾綾氏を迎え、また、「みはまスポーツクラブ」の担い手として、千葉洋平氏（スポーツ教育センター所属）に加わっていただき、次年度からのセンター教員3人体制の礎を作る作業に取り組みました。また、事務局も、新たに伊藤立企画政策課長、竹内裕賀課員の2名にセンターの担当としてサポートをしてもらいました。

センターの業務は、これまで通り、(1) 特別強化指定サークルの支援、(2) みはまスポーツクラブの共同運営、(3) 地域、学内のスポーツ振興の3つを柱に取り組みました。

まず、特別強化指定サークルへの支援については、2つの企画（中尾担当）とサークル幹部学生の聞き取り調査（中尾、千葉）を実施し、サークルへの組織的な支援活動をスタートさせました。それにより、スポーツ科学センターの認知度も少し高まったように受け止めています。しかしながら、強化指定サークルの一部のサークルは期待された競技戦績を残すことができたものの、多くは振るわず、次年度に向けた課題とされました。単に、技術や体力と行ったパフォーマンスの課題だけではなく、聞き取り調査からも浮き彫りになったサークルの組織性については、来年度何らかの支援活動を実施したいと思います。

次に、みはまスポーツクラブに関しては、教室の数が増え、その参加者数も拡大しており、財政的にも一定余裕が生まれる所まで到達しました。そこで、NPO 法人化の動きを推進する検討を始めました。クラブ創設時に、将来法人格を取得することが話し合われましたが、否定的な意見が多く出されたそうです。現在はクラブが次のステップに進むためには、法人化の検討は必要との理解を得られることができ、千葉氏を中心に学習会、検討会が開催されました。しかしながら、法人化に向けて総論としては賛成されても、各論のところでの共通理解や認識が不十分であることが露呈し、来年度は、法人化を急ぐのではなく、法人化後の活動がスムーズに展開されるためにも、もう少し議論を蓄積し、町民への理解を求める活動に取り組むことになりました。

最後に、地域及び学内のスポーツ振興については、残念ながら形に残る取り組みをすることができませんでした。一応、センター独自の町民へのスポーツニーズ調査を検討し、予備調査としてアンケートを作成し、実施の段階近くまで進めましたが、町との折り合いがつかず、頓挫し、これも次年度に持ち越すことになりました。

以上、次年度への課題が残るような総括となりましたが、センターとして果たす機能や役割はこの1年で進展したことは確かです。ここに、新たに2名のセンター教員（助教）が合流しますので、期待も膨らみます。来年度は、学内にある他のセンターに引けを取らないように組織として確立させ、独自の役割を担いつつ、スポーツ科学部と連携しながら、学内外のスポーツ強化・振興に取り組んでいきたいと思ひます。 （吉田）

2. スポーツ科学センターの活動

1) 活動目的

1. スポーツに関する学生教育
2. 課外活動の支援
3. 地域と連携した教育実践活動など、本学の特色を生かした総合的なスポーツ振興に関する諸施策を立案し、事業を推進する

2) 事業計画

○ スポーツに関する学生教育

- ゼミやサークルを基盤とした地域・団体へのスポーツ支援
- スポーツ関係資格取得者（障がい者スポーツ指導員など）へ活動の場の情報提供
- スポーツ推薦入学者への支援
- 学内スポーツ施設整備計画の策定

○ 課外活動の支援

- 特別強化指定サークルの選定
- スポーツ活動の広報：HP 発信
- リーダー研修の実施
- スポーツイベントの実施

○ 地域と連携した教育実践活動

- 地域スポーツクラブとの連携
- 知多地域スポーツ振興・拠点化4カ年計画の策定
- 総合型地域スポーツクラブの設立
- 中高年者や障がい者のスポーツプログラムの開発・イベント実施

3. スポーツ科学センター会議

1) 会議構成員

山本秀人（副学長：子どもの発達学部 教授）

吉田文久（センター長：子どもの発達学部 教授）

千葉洋平、中尾綾（スポーツ科学センター 助教）

伊藤僚（全学教育センター 助教）

伊藤立、西田美香、竹内裕賀（企画政策課）

江本健康（学生課）

計 9 名

2) 会議実施日

第 1 回	2016 年 4 月 15 日（金）	16:45～18:30	ミーティングルーム
第 2 回	2016 年 5 月 13 日（金）	16:45～18:30	ミーティングルーム
第 3 回	2016 年 6 月 24 日（金）	17:00～19:00	ミーティングルーム
第 4 回	2016 年 7 月 22 日（金）	10:00～11:10	ミーティングルーム
第 5 回	2016 年 9 月 27 日（火）	15:00～16:40	ミーティングルーム
第 6 回	2016 年 10 月 25 日（火）	15:10～16:10	ミーティングルーム
第 7 回	2016 年 11 月 22 日（火）	15 : 10～16:20	ミーティングルーム
第 8 回	2016 年 12 月 20 日（火）	15 : 10～17:00	ミーティングルーム
第 9 回	2017 年 1 月 24 日（火）	15 : 10～17:00	ミーティングルーム
第 10 回	2017 年 2 月 21 日（火）	15 : 10～17:00	ミーティングルーム
第 11 回	2017 年 3 月 28 日（火）	15 : 10～17:00	ミーティングルーム

4. スポーツ強化支援政策

概要：

- ・学校法人日本福祉大学体育会の活動支援
- ・特別強化指定部の活動支援
- ・みはまスポーツクラブをはじめとした地域貢献活動支援

1) スポーツ講演会

第1回：2016年9月8日（木）10:00～13:00 実施

講師：杉山ちなみ氏（株式会社リボンプロジェクト代表取締役）

- ▶ NATA 公認アスレティックトレーナー
- ▶ NSCA 公認ストレングス&コンディショニング
- ▶ （財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー
（トレーナー活動）
- ▶ JISS 非常勤アスレティックトレーナー
- ▶ 愛知学泉大学女子バスケットボール部 アスレティックトレーナー
- ▶ JOC メディカルサポート部会員→リオオリンピック帯同

講演内容：「トップアスリートのコンディショニング管理」

9月8日（木）、スポーツ科学センター主催で本学強化指定サークルの部員を対象としたスポーツ講演会・クリニックを実施した。講師に杉山ちなみ氏（株式会社リボンプロジェクト代表取締役）をお招きし、「トップアスリートのコンディショニングについて」というテーマでご講演をいただいた。

第一部の講演会では文化ホールに約200人の学生が集まり、①セルフコンディショニングについて、②姿勢についてという内容で、コンディショニング管理の重要性や正しい姿勢が競技パフォーマンス向上につながる理由などを、とても分かりやすく話していただいた。

第二部のクリニックでは各部を代表した2～3名、全体で約50名の学生がコミュニティセンターに集まり、身体を使って実践的なトレーニング指導をいただいた。運動系のサークル部員たちは競技特性によって姿勢に特徴が現れていることを身をもって感じることもできた。

講演・クリニックをしていただいた杉山氏からは、「コンディショニングは選手個々の意識一つで大きく変わる。」ということを学生に強く伝えていただいた。日本を代表する数々のトップアスリートを見てこられた杉山氏が、日常生活における姿勢すなわち誰でも実践できることを重要視されていることに驚かされ、また自身の姿勢について考えるきっかけとなった。

【2016年度第1回スポーツ講演会・クリニック当日の流れ】

1. 実施日：2016年9月8日（木）10:00～13:00

時刻	項目（晴天時）	内容
前日	前日	会場設営 ・文化ホール ・コミュニティセンター3階 ※案内板、張り紙、飲み物、花等準備
9:15	会場設営	（準備対応） ・マイクの準備等
9:30	応接室 （文化ホール控室 or 研究本館応接室）	講師来校 →吉田スポーツ科学センター長と中尾先生対応
	文化ホール開場	・学生の誘導等
10:00	講演会開始	司会：中尾先生 ～センター長挨拶～ →講演会開始
11:00	質問	各部からの質問
11:15	講演会終了	移動開始（コミュニティセンター3階）
11:30	クリニック開始	司会：中尾先生
12:45	質問	各部からの質問
13:00	閉会	

2. 参加者数

NO	団体名	参加者数
1	I部サッカー部	19
2	硬式野球部	2
3	女子ソフトボール部	42
4	男子ソフトボール部	19
5	ラグビー部	17
6	アーチェリー部	19
7	アメリカンフットボール部	22
8	I部硬式テニス部	3
9	I部卓球部	11
10	I部バスケットボール部	11

NO	団体名	参加者数
11	I部バドミントン部	0
12	弓道部	8
13	準硬式野球部	20
14	女子ラクロス部	19
15	水泳部	0
16	男子ラクロス部	21
17	陸上競技部	7
18	合奏研究会吹奏楽団	11
19	夢人党	13
20	一般サークル	7

合計 271 名参加

【参加した学生からの感想】

<I部女子バスケットボール部 主将：社会福祉学部3年 岡田優花>

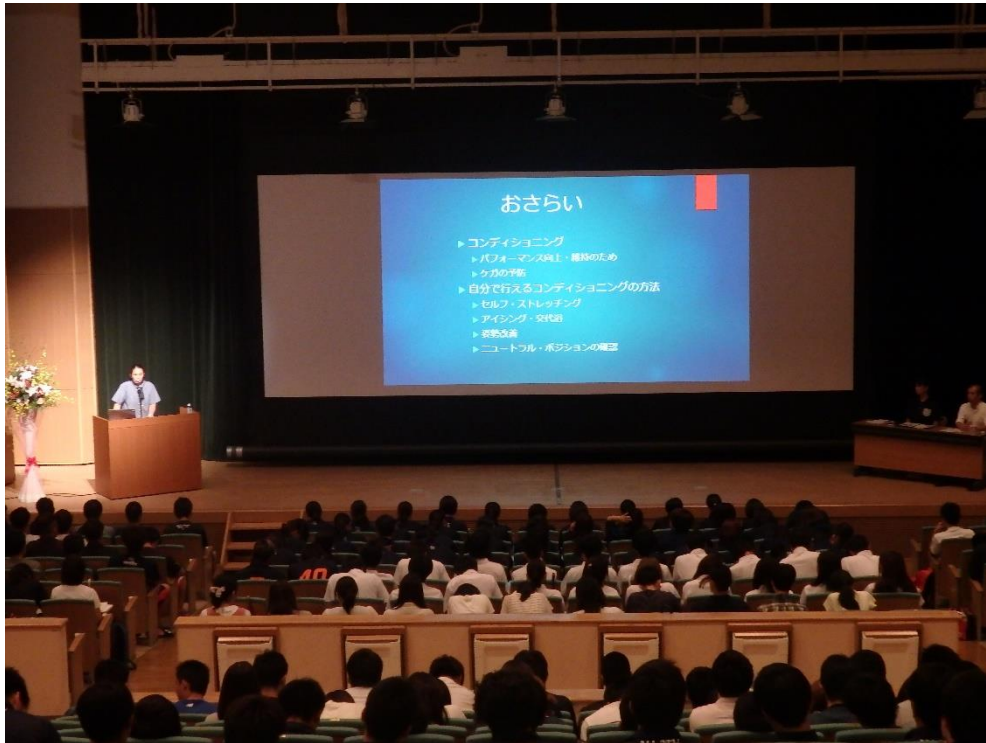
スポーツにおいて、どのように試合や練習に臨むのかなどコンディションを整えることが重要になってくると思います。試合前、後のストレッチにしても正しい認識と理解で取り組むことにより、良いプレーができたり、怪我を防止することにつながってきます。自分のベストを試合で出すためにも、もう一度基礎に戻り細かいところから取り組んでいきたいです。講演で聞いた内容を聞いただけで終わりにするのではなく、実践し、部員に広め、チームとして活かしていきたいです。

<女子ソフトボール部 部員：子ども発達学部3年 新藤かおり>

全身の筋肉を意識することで、立つという行為だけでも同じ姿勢を持続することがなかなか難しく、正直疲れてしまいました。いかに普段楽をしていて、それが自分にとって悪い影響を及ぼしているかを今回実感する事が出来てよかったです。ただトレーニングをやるのではなく、どの部分の筋肉をどう使っているか、しっかりと理解した上、正しい形でトレーニングを行うことで、より効果が得られるのだと分かりました。短い時間でしたが、とても三つの濃い貴重な時間を過ごす事が出来ました。

【講演会・クリニックの様子】





【2016 年度第 1 回スポーツ講演会・クリニック後のアンケート調査用紙】

本日のスポーツ講演会・クリニックはいかがでしたか。次回以降の開催に向けて、以下に本日の感想等を記入してください。

氏名		サークル名	
1. 本日の感想を聞かせてください。			
2. 今後、知りたい・学びたい知識や情報、テーマを教えてください。 (例：栄養学、組織論、スポーツ科学、スポーツ以外に関するテーマ等)			
3. その他ひとこと (あれば記入してください。)			

以上

第2回：2017年1月26日（木）16:30～18:00 実施

講師：山本和恵氏（2017年度本学スポーツ科学部赴任予定者）

▶ 公認スポーツ栄養士

講演内容：「スポーツ栄養の基礎とその活用」

今年度2回目となるスポーツ講演会を、第1回と同様に本学強化指定サークルの部員を対象として1月26日（木）に実施した。今回は、第1回の講演会後に行った学生へのアンケート調査で、最も興味の多かった栄養学の分野とした。110教室を会場として約360人の学生が集まった。

講師として来年度スポーツ科学部に赴任予定の山本和恵先生をお招きし、「スポーツ栄養の基礎とその活用」というテーマでご講演頂いた。山本和恵先生は、日本でも数少ない公認スポーツ栄養士として、スポーツ現場での栄養サポートや栄養マネジメントを行っている。

講演では、スポーツ栄養マネジメントを行うためにアスリート（チーム）とどのように関わっているのかを、チームの目標と栄養計画という図で示しながら話していただいた。また、基礎栄養学や食事摂取のタイミングの重要性について、競技特性や性別などを参考にした表や食事例として写真を用いてわかりやすく説明いただいた。講演終了後には、多くの学生から質問もあり、とても有意義な講演会となった。

本学の学生は下宿生が多く、部活動を一生懸命取り組む反面、食事面での課題は多いと学生自身を感じている。現在、どの部活動も来シーズンに向けてトレーニングを積んでいる。この時期にパフォーマンス向上に食事は重要であり、その活用法を聞いたことはどの部にとっても貴重な機会であった。

【講演会の様子】



【2016年度第2回スポーツ講演会・クリニック】

1. 実施日：2017年1月26日（木）16:30～18:00

時刻	項目（晴天時）	内容
前日	前日	竹内さん・中尾打ち合わせ ・アンケート内容 ・山本先生対応 ・会場について
15:00	会場設営	・パソコン・マイクの準備等 ・資料準備
16:00 ～	研究本館	山本先生来校 →吉田先生と中尾対応
16:15	110 教室	・学生の誘導等（千葉先生・西田さん・他）
16:30	講演会開始	司会：千葉先生 ～センター長挨拶～ →講演会開始
17:30	質問	各部からの質問
17:45	講演会終了	アンケート記入後、解散

2. 参加者数

NO	団体名	参加者数
1	I部サッカー部	10
2	硬式野球部	34
3	女子ソフトボール部	43
4	男子ソフトボール部	26
5	ラグビー部	18
6	アーチェリー部	11
7	アメリカンフットボール部	17
8	I部硬式テニス部	10
9	I部卓球部	17
10	I部バスケットボール部	25

NO	団体名	参加者数
11	I部バドミントン部	12
12	弓道部	19
13	準硬式野球部	17
14	女子ラクロス部	22
15	水泳部	5
16	男子ラクロス部	23
17	陸上競技部	9
18	合奏研究会吹奏楽団	0
19	夢人党	0
20	一般サークル	0

合計 318 名参加

以上

【参加した学生からの感想】

<I部サッカー部 副部長：子ども発達学部1年 太田征宏>

今回の講演会を受けて、一番印象に残ったことは、朝ご飯を食べずに練習してもあまり意味がないということです。貴重な練習時間をしっかりと自分のものにできるように朝ご飯をしっかり食べるようにしたいと思いました。それにより怪我のリスクも低くなると思うので、部活全体でしっかり取り組んでいきたいと思います。

<I部サッカー部 学生コーチ：子ども発達学部1年 下地優利>

スポーツ栄養の基礎とその活用の講演会に参加して、とても自分のためになる話だと思いました。食事の量やバランスだけでなく、食べるタイミングやどのような食べ方をしたら良いのだの、これから意識して行かなければならないと思いました。各自の意識次第でプレーに影響が出てくるのでコーチとして選手の食事にも目を配りたいと思いました。

<ラグビー部 主将：社会福祉学部3年 矢野太陽>

今日の講演会をきいて、食事、栄養の大切さをとても詳しく知ることができました。ラグビーはフィジカルというのがプレーに大きく影響してくる競技なので、トレーニングだけでなく食事面でも意識しないと大きくなっていくことを改めて感じました。朝食を食べないと筋力が低下するということをきき、運動と食事と睡眠のサイクルをこれからはしっかりとした生活をしていこうと思いました。

練習前におにぎりをたべることや練習後すぐにプロテイン摂取など、グラウンドでもできることなので、部として実践していきたいです。

今日の講演はとてもいい機会だったので、今日学んだことを参考にこれからの活動に活かしていきたいです。今日は講演、ありがとうございました。

<ラグビー部 主務：社会福祉学部2年 和田大樹>

スポーツ栄養士の山本さんの話を聞いて、五大栄養素が担うそれぞれの役割を知れた。筋肉やフィットネスなどを効率よく向上させるための食事方法などを知れてよかった。今日学んだことを今後部活で活かしていきたい。

2) 強化指定部面談

スポーツ科学センターにおけるスポーツ支援の一環として、本学における特別強化指定部の活動状況を把握するため、スポーツ系強化指定部を対象にヒアリングを行った。シーズンが終了した時点で、各部がどのような戦績を残したのか、そして、その結果を総括し、次年度に向かおうとするのかを確認することを目的とした。

1. 日 時

2016年10月31日(月)～11月16日(水) 11時～13時

各部30分程度で実施

2. 実施場所

スポーツ科学センター

3. 面談者

千葉助教、中尾助教

4. 対象強化指定部：18部

<特別強化指定部 A>

① I部サッカー部 ②硬式野球部 ③男子ソフトボール部 ④女子ソフトボール部
⑤ラグビー部

<特別強化指定部 B>

⑥アーチェリー部 ⑦アメリカンフットボール部 ⑧準硬式野球部 ⑨ I部バドミントン部
⑩男子ラクロス部 ⑪女子ラクロス部 ⑫ I部硬式テニス部 ⑬ I部卓球部
⑭ I部バスケットボール部(男子) ⑮ I部バスケットボール部(女子) ⑯弓道部 ⑰陸上競技部
⑱水泳部

5. 実施方法

各部代表者1～3名とスポーツ科学センター教員1名(千葉 or 中尾)で面談を実施。ヒアリング内容は、①今シーズンの結果・ポイント ②要望 ③その他(部員数・活動状況含む)とした。

6. 総 評

1) 今シーズンの結果・ポイント

強化指定部全体としては、思うような結果が出せなかったという部が多かった。また、団体競技でリーグ戦上位から入れ替え戦に出場し昇格権がありながらも、勝ちへのこだわりという部分は低く（それほど強くなく）、結果現状維持・現状満足という部が多いという印象であった。

目標設定や活動目的が曖昧で、それに向けたミーティング実施などが行われていない部が多かった。また、そのような現状から個々では課題を把握していながらも、実践に移せていないのではないかと感じた。

2) 要望

多くの部から部費の増額をしてほしいという要望があった。その理由としては、遠征や試合への旅費負担が多い・テーピング等の消耗品の自己負担が厳しいというものであった。また、利用施設に関しての要望も各部であげられていたが、トレーニング室の利用時間拡大（午前中や土・日の利用）や他キャンパスから通う学生から東海キャンパスのトレーニング室活用などの要望は多く聞かれた。

3) その他

多くの部が魅力として、学年間の壁がなくコミュニケーションはよく取れており、仲がいいという事をあげていた。練習に指導者がほとんど来ず、自分たちでメニューを考えて行っている部が多かったが、ソフト部のように指導者とのコミュニケーションがきちんとしてとれている部もあれば、部内の悩みなどを相談できていない（できる関係にない）部もあった。

今回の面談においては、活動状況・内容を把握することを目的として行ったため、学生からの要望もできる限りヒアリングした。そのため、現実的には厳しいと思われる内容も多々あると思われる。ただ、学生の口から直に話が聞けたことは強化支援のスタートとしては非常に意味のある面談であった。また、本学の特別強化指定部としての在り方を明確に伝えきれていないという大学側の現状も、これからの取り組べき課題として重要であると感じた。今回の面談をスタートラインとし、定期的に面談を実施していくことで、本学の強化指定部の活動がより魅力あるものになるよう、スポーツ科学センターの役割として支援体制を構築していきたい。

(2016 年度特別強化指定部面談実施報告より)

3) 主務会議

1. 目的

強化指定部（A、B、C）との日常的な情報交換の場とする。

2. 主な内容

日常的な活動内容を中心に聞き取り、報告を行う。

- ・部の活動スケジュールの確認（試合、練習、部への出欠席状況）
- ・施設借用計画の提出
- ・予算管理
- ・その他（サークルオープンキャンパス準備など）

3. 主務会議メンバー

- ・スポーツ・文化政策担当事務長およびスポーツ・文化政策担当者
- ・各強化指定部活動主務

<日程>

第1回	2016年4月21日（木）	12:30～	1223 教室
第2回	2016年5月26日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第3回	2016年6月16日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第4回	2016年7月21日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第5回	2016年9月15日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第6回	2016年10月20日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第7回	2016年11月17日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第8回	2016年12月15日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第9回	2017年1月19日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第10回	2017年2月16日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ
第11回	2017年3月16日（木）	12:30～	イングリッシュラウンジ

5. みはまスポーツクラブの活動支援

みはまスポーツクラブは、2016年9月で創設から4年目を迎えました。この間、本学スポーツ科学センターと美浜町役場が協力をし、また美浜町内のスポーツ推進委員会、体育協会、及び教育委員会といった協力団体との連携を通してクラブ運営が行われてきました。

その結果、現在までにプログラム数は約20、1年間の参加者数もおおよそ500名を超え、みはまスポーツクラブの認知も少しずつ広がってきました。さらにスポーツ推進委員の皆さんをはじめ、クラブ運営の核となる人材も発掘されており、この4年間で多くの成果が見られるようになりました。

こうした成果が生まれてきたと同時に、みはまスポーツクラブをめぐる状況にもいくつかの変化が起こってきています。本学のスポーツ科学部の開設や知多奥田駅前の陸上競技場の建設計画、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、みはまスポーツクラブにとって追い風と言える出来事が立て続けに見られるようになりました。さらにこれまでの活動を通じて、スポーツを行いたくても行えない人々が美浜町内に多く存在していることや、みはまスポーツクラブに対する期待も少なくないことなどが実感されるようになりました。

このような状況の中、今後みはまスポーツクラブに求められることは、こうした周囲の要求や期待に応えられるよう組織体制を整備していくことにあります。そこで2016年度では、中・長期計画のワーキンググループを立ち上げ、2020年までの中長期計画について検討を行いました。そしてその中では、美浜町や美浜町内のスポーツに関する課題、みはまスポーツクラブの現状分析(図1)、クラブの理念や2020年までのビジョン、目標値について検討を進めました。2017年度以降は、中長期計画を策定し、この計画に則った確実な運営をしていくことが求められます。こうした作業を通じて、スポーツを通したまちづくりを実現していくことが、これからのみはまスポーツクラブには期待されています。(千葉)

<p style="text-align: center;">強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・行政との連携 ・スポーツ推進委員との連携 ・美浜町のコンパクトさ ・スポーツ関連の施設の豊富さ ・自然環境 ・活動実績 ・クラブの認知度の向上 	<p style="text-align: center;">弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制 ・プログラム,その他事業不足 ・指導者不足 ・会場へのアクセス ・広報活動不足 ・地元団体との連携不足 ・若者の取り込み不足 ・住民の危機意識不足
<p style="text-align: center;">機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日福大スポーツ科学部の開設 ・競技場・駅前開発 ・法人格や助成制度 ・東京オリンピック・パラリンピックの開催 ・近隣の総合型クラブの存在 ・中部国際空港 ・宿泊施設や食べ物 ・大学生の多さ ・愛知県のブーム 	<p style="text-align: center;">脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少・流出 ・若者・子どもの減少 ・子ども・若者のスポーツ離れ ・高齢者の増加 ・災害 ・貧困層の増加 ・東京オリンピック・パラリンピックの後

図1 みはまスポーツクラブ内部環境分析: SWOT

6. 今年度の総括および次年度に向けて

今年度、スポーツ科学センターは吉田センター長を中心にセンターの役割と体制作りの確立を目標に活動を行ってきました。主な事業として3つ（スポーツ強化支援、「みはまスポーツクラブ」の活動支援、地域及び学内スポーツ振興）の重点課題がある中で、試行錯誤しながらもいくつかの計画を行動に移すことができました。

それらは、スポーツ強化支援政策として2回のスポーツ講演会の企画・実施や、特別強化指定部の学生及びスタッフとの面談です。これによって、スポーツ科学センターと特別強化指定部との接点を作るいい機会となりました。しかしながら、強化という視点から各部活動の現状をみると、改善すべき点が多くあると感じました。特別強化指定部の活動がよりよいものになるよう、スポーツ科学センターとしてどのようなアプローチをしていくべきなのかは次年度以降の課題ともいえます。

また、みはまスポーツクラブの活動支援として美浜町の方々と、みはまスポーツクラブのNPO法人化に向けての多くの議論を行ってきました。総合型スポーツクラブとしての理念を確立し、その運営体制の整備を進めはじめました。

来年度はスポーツ科学部が開設されることもあり、スポーツ科学センターとしての役割も重要なポストとなります。スポーツ科学センターだからできる、あるいはスポーツ科学センターにしかできない役割というものを追及していきたいと思います。（中尾）

<次年度の主な取り組み（案）>

- ・スポーツ講演会・・・全強化部を対象とした企画と、対象の部を抜粋した企画する。
- ・強化部との面談・・・定期的に各部から話を聞けるような体制を作る。
- ・主務会議・・・月1回各部の主務が集い、全体への連絡を行っている。この場を利用してスポーツ科学センターからの発信をしていく。
- ・ホームページの充実
- ・オフィスアワーの改革
- ・みはまスポーツクラブのプログラム作成

日本福祉大学スポーツ科学センター年報 第1号

平成28年度(2016)

平成29年6月発行

スポーツ科学センター関係教員 吉田文久(センター長:子ども発達学部 教授)
千葉洋平(スポーツ科学センター 助教)
中尾 綾(スポーツ科学センター 助教)
編集責任 中尾 綾

日本福祉大学スポーツ科学センター 〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前 35-6
日本福祉大学 Sport Lab SALTO 3階
TEL: 0569-87-2396
FAX: 0569-87-2291
E-Mail: sports-edu-office@ml.n-fukushi.ac.jp
